

再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道121号 <small>あいづじゅうかんきた</small> 会津縦貫北道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県喜多方市関柴町 至：福島県会津若松市高野町	延長	13.1km		
事業概要 一般国道121号は、山形県米沢市から栃木県芳賀郡益子町に至る約281.6kmの主要な幹線道路である。会津縦貫北道路は地域高規格道路であり、福島県喜多方市から会津若松市に至る延長13.1km、2車線の自動車専用道路である。					
H9年度事業化		H-年度都市計画決定（H-年度変更）		H11年度用地着手	
				H14年度工事着手	
全体事業費	約410億円	事業進捗率	80%	供用済延長	10.1km
計画交通量	20,800台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)		総便益 (残事業)/(事業全体)	
	2.1 (残事業)	118億円/424億円 〔事業費：108億円/414億円〕 〔維持管理費：9.4億円/9.4億円〕		689億円/887億円 〔走行時間短縮便益：579億円/730億円〕 〔走行経費減少便益：60億円/83億円〕 〔交通事故減少便益：50億円/74億円〕	
基準年 平成23年					
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C=1.7~2.5(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.0~2.1(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.9~2.3(事業期間±20%)					
【残事業】 B/C= 5.3~6.5(交通量 ±10%) B/C= 5.3~6.4(事業費 ±10%) B/C= 5.4~6.3(事業期間±20%)					
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・並行区間等の渋滞損失時間：74.3万人・時間/年、渋滞損失削減率：約9割削減 ②国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路である会津縦貫北道路の位置づけ有り ③安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設へのアクセス性が向上（喜多方市～会津中央病院 現況：27分） ④災害への備え ・山形県緊急輸送道路ネットワーク計画において、国道121号が「第一次緊急輸送道路」に指定					
関係する地方公共団体等の意見 ○福島県知事の意見 国の対応方針（原案）については、異議ありません。 なお、広域的な地域間交流の拡大と災害に強い幹線道路ネットワークを確保するため、早期完成に努めてください。					
○以下の団体等から、会津縦貫北道路の整備促進について要望あり ・会津縦貫北道路整備促進期成同盟会 ・会津総合開発協議会 ・会津地区道路整備促進期成同盟会 ・会津方部商工観光団体協議会					
事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「継続」が妥当である					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成25年5月 福島県立医科大学 会津医療センターが開院 ・平成25年9月8日 会津縦貫北道路3工区（湯川北IC～湯川南IC）が暫定2車線で開通					
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成9年度事業化、用地進捗率99%、事業進捗率80%（平成26年3月末時点） ・平成21年度：喜多方市塩川町遠田～河沼郡湯川村大字笈川間 延長3.2km（2/4）部分開通 ・平成23年度：喜多方市関柴町～喜多方市塩川町遠田間 延長4.7km（2/4）部分開通 ・平成25年度：河沼郡湯川村大字笈川～河沼郡湯川村大字桜町 延長2.2km（2/4）部分開通					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない
- ・平成27年度：全線2車線開通予定

施設の構造や工法の変更等

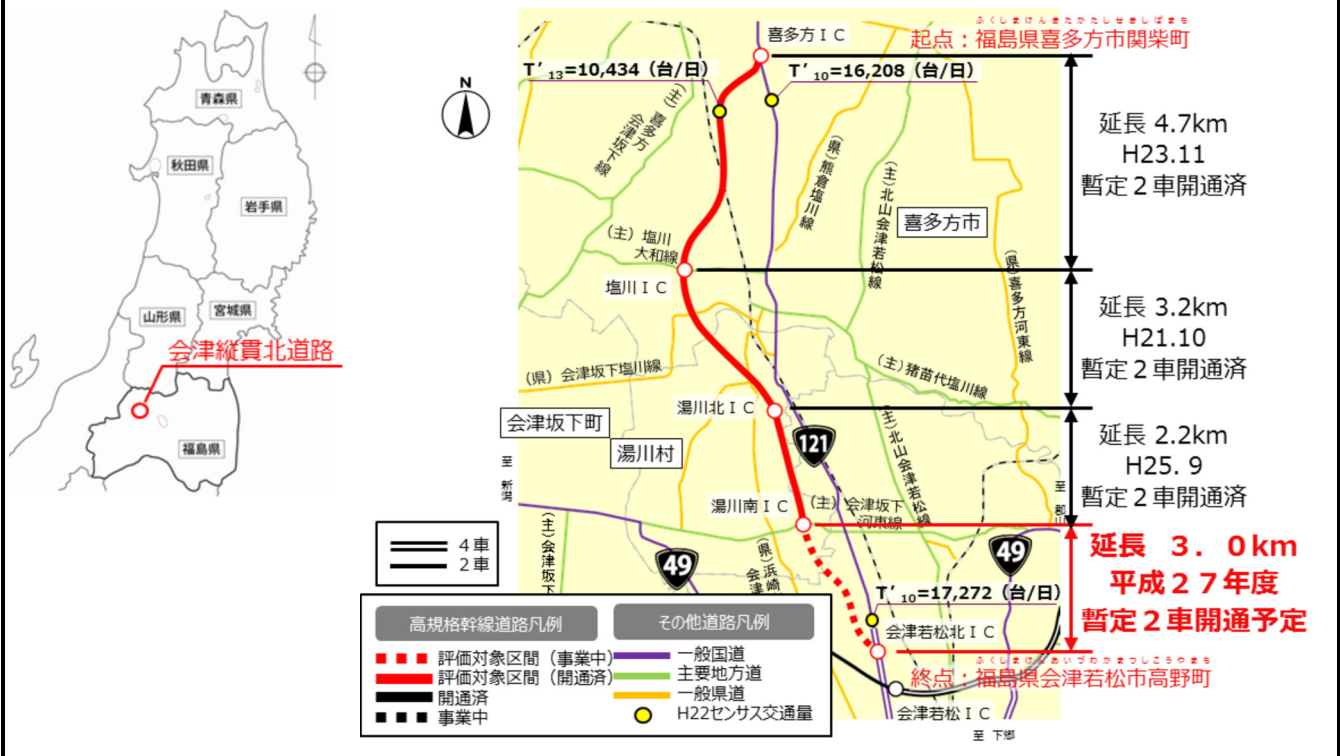
- ・軽量盛土工法の採用
- ・改良型防護柵の設置

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。